



利用者の声

宮野 桂輔

私は今、体芸図書館の膨大な情報に接する機会に恵まれたことを最大限に活用する方法を模索中ですが、未だこれといった答はありません。

現在は本学大学院で建築設計を専攻する者ですが、学群を卒業後、しばらく設計事務所に勤務していました。社会に出て初めて気付くのですが、何か必要な情報を得たいという時にいざ周囲を見回しても、意外と適当な情報源がないということです。実際に何度か体芸図書館があれば、と思いました。(もっとも、十分に時間がとれないのも事実ですが。)

体芸図書館に所蔵されている本は、特に芸術系の本に限っていえば、それらを自由に利用できるということは、かなり便利なことです。一般にこの分野の本は、図版が多かったり、装幀が立派だったり、発行部数が少なかったりで高価なものが多いのが現実です。そのくせ本、月刊誌ともにたくさんの種類があって、たとえ厳選したとしても書籍代は膨らむ一方です。また過去の出版物、特に雑誌のバックナンバーは昔のものほど探す

のが困難ですし、全集ものは古本屋では縛られていてなかなか見せてはもらえません。ましてや海外の雑誌などはそれなりの本屋に行っても無いものがあり、これらの資料に収集の苦勞をすることなく自由に触れられるのはまさに絶好の機会です、おそらく大学を離れてしまうと、滅多に無いことと想像します。まずそんな時間が無くなるからです。

さらに、夜10時まで開館しているのも大きな魅力です。最近では祝日も開館するようになり、さらに便利になりました。おかげでほぼ1日調べものに没頭することができます。

建築学科のある、某有名大学の図書館に入ることがありますが、その貧弱さには同情しましたし、実際に外部の人にとって、体芸図書館の充実ぶりは羨望の的です。私自身、一度外部の人間になってはじめてその価値に気付きました。再び学生となった今、足繁く図書館に通う日々です。

(みやの・けいすけ 芸術研究科2年)